No.28

げんきカエル

こども病院ニュースレター

新年のごあいさつ

「小児周産期施設の充実は安心社会のバロメーター」

病院長　丸尾　猛

新年おめでとうございます。

当院は昭和４５年に県政１００周年記念事業として全国2番目の小児病院として開設され、今年創立40年を迎えます。平成6年には周産期医療センターが、平成１９年には小児救急医療センターが開設され、「ハイリスク胎児とこども達を守る砦」として第3次救急医療の役割を担っています。

当院では常に60名前後の患児が人工呼吸管理下にあります。言いかえれば入院患児の4名に１人は人工呼吸管理下にあり、総合病院では想像できない別世界の臨床が動いています。 特に、老朽化した本館病室に複数台の人工呼吸器が入りますと、身動きが難しい状況となり身をかがめて精密な診療・看護に携わる病棟スタッフの情熱に、回診ごと頭が下がる思いです。また、平成20年度の総手術件数の42%に相当する1850件は日帰り（外来）手術で、その1200件には全身麻酔が施されています。入院に伴って患児と両親が離ればなれになるのをなくしたいとのスタッフの熱い思いと技能の高さは小児医療施設の中でも瞠目される実績となっています。全国的に高い評価を受けている当院の高度専門医療が、築後40年を経過し老朽化した本館を舞台に今後、平成29年の建替えまでの7年間維持できるか確信が持てない今、当院の将来に向けたプランを兵庫県知事のご理解を仰ぎながら現実化させていくことが、病院長としての責務であると感じています。

小児周産期の高度専門医療は、昼夜を問わず大きなマンパワーを要し、採算がとりにくい分野であります。

しかし、「経営の質」と「診療の質」は車の両輪であるとの認識のもと、職員の病院運営への意識改革と力強い協力によって、平成20年度の収支損益は当院開設以来39年目にして初めてプラスに転ずることができました。 小児入院医療管理料アップが大きな原動力になっていますが、この年を当院の経営改革元年ととらえ、職員一丸となって兵庫県立こども病院の底力を発揮したいと念じています。

平成21年12月には、本館前の「母と子の教室」のリニューアルが完成し、1Fには院外の医療関係者が利用できる共同研修室が設置され、2Fには図書室・閲覧室が整備されて、当院は地域医療支援病院の認定を得るに至りました。さらに老朽化した医師公舎を撤去しての駐車場整備とゲート管理化も今春からスタート予定で、長年の懸案事業に大きく舵をきって下さった病院局のご英断に感謝の気持ちで一杯です。当院は医療施設から紹介の患者さんのみを診療対象とする第3次施設でありますが、当院の特殊専門機能をより広くご活用いただけるよう積極的に情報発信し、従来の「待ち受ける医療」から「集まる医療」に転換していきたいと考えています。

当院では、職員一人ひとりが新しい生命の誕生と将来を担うこども達の命に関わる仕事に従事していることを自覚し、常に次元の高い危機感を持って医療者・患者間の情報を共有し、皆様に安心し信頼される医療を実践したいと考えています。新年を迎え、皆様方にとって素晴らしい一年でありますよう祈りますと共に、今後もより一層の医療連携をお願い申し上げます。

寅

最新鋭機種に更新されました！
ー血管造影検査室ー

検査・放射線部　関尾　直士

昨年12月に血管造影装置が最新鋭機種のAllura Xper FD20/20（フィリップス社製：オランダ）に更新されました!!!血管造影検査では頭部、心臓、腹部など全身の血流状態を検査しています。最近では、狭くなった血管や弁をバルーンやステントで拡げ、異常血管にコイルを挿入し血流を止めてしまうなど、より体の負担が少ない治療も行っています。今回導入された装置は高画質で、X線被ばく量をずいぶん少なくすることができます。また、血管を3次元的に表示できる機能やCTスキャンの様な輪切り画像を撮影する機能も備わっています。新装置の機能を最大限に駆使して、検査精度と安全性を向上させ、患者様に安心して検査・治療を受けて頂けるように努力してまいります。

患者・家族様向け図書の設置

患者サービス向上委員会委員長　船曳　健次

お子様の病気は「〇〇性□■疾患で◇◆によるものです。」、「え？」と思わず聞き直しをします。すると、先生が体の絵を描いてくださったり、メモで詳しく説明をしてくださったりします。でも、結局よく理解できず、お家に帰ってからインターネットで‥‥、パニック状態になります。

成人の病気は、いろんな媒体から見聞きし知識を得る機会は多くありますが、子どもの病気についてはわからない人が多いのが実情です。

私たちは、ご両親が子どもさんの病気を良く理解できる環境をつくること、そのことが、子どもさんの病気と成長をお助けする医療従事者とより緊密なパートナーシップが描けると思っています。

そのための支援として患者・家族の皆さんに病気の理解を少しでも深めて頂くための図書棚の設置がやっとできました。（神戸ハーバーライオンズクラブのご厚意です。）まだ少ない冊数（35冊）ですが徐々に充実させていきますので、ご利用ください。

循環器科の紹介

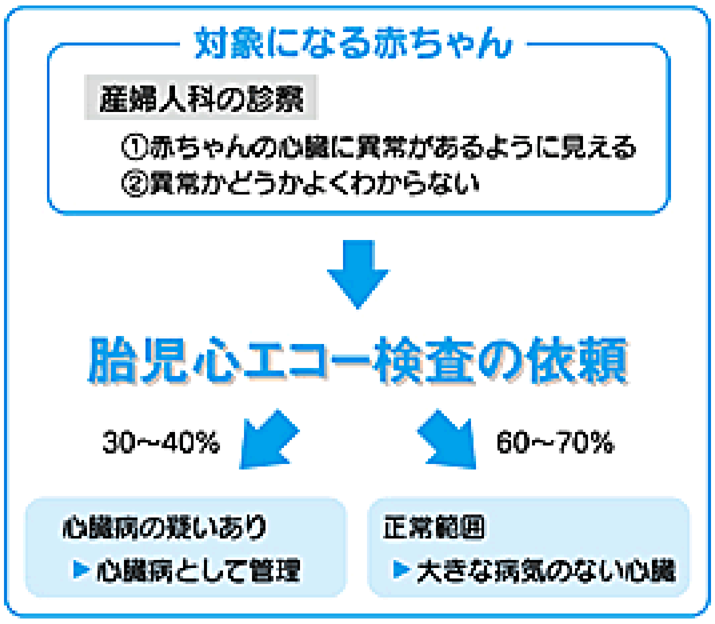
循環器科　齋木宏文

胎児心エコー検査って？

胎児心エコー検査は正確には胎児心臓超音波検査と言います。近年、超音波機器が発達し、生まれる前に赤ちゃんのお顔や手足を産院さんで見せてもらった御家族の方も多いと思います。同じように心臓も細かく観察できるようになり、専門の医師が診察すれば重症の心臓病の95％以上が生まれる前に診断できるようになりました。従来、重症先天性心疾患は命が危ない状態になって初めて診断･治療されることが多かった病気ですが、胎児心エコーの普及に伴い病状が悪くなる前に専門的な治療が開始できる赤ちゃんが増えてきました。

何がわかるのですか？

赤ちゃんの位置や体勢が良ければほとんどの先天性心疾患の診断が可能です。しかし小さな心臓のわずか数mmの構造を限られた視野で診断しますので、軽症の心臓病は評価が難しいこともあります。このような比較的軽症の心臓の病気は検診の際にほとんどが発見され、心臓が原因で急変することもまずありません。



一方、重症心疾患や重症化する危険性のある心臓病はかなり正確に診断できます。このような赤ちゃんは生まれてすぐに専門的集中治療が必要になったり、元気になった後も定期的に健診が必要になったりします。一般的な治療経過や治療後の生活などを説明し、時に複雑な心臓病の治療を御両親が少しでも理解して迎えられるようにサポートさせて頂いています。

最後に

胎児心エコー検査は万一の場合に備え、御両親や御家族が気持ちの準備をし、小児心疾患治療チームが迅速に、充分な対応をする体制を整えるための“転ばぬ先の杖”でもあります。病状は考えられる危険性を大きめに見積もって御説明させて頂いていますので、実際の病状は説明内容よりもやや軽いことが多くなりますが御了承ください。

心臓の4個の部屋が見えています。

売店・食堂をリニューアル

10月から、当院の売店と食堂の営業を委託している業者が変更になったことに伴い、営業時間の拡大や取扱商品の拡大など、院内の様々なニーズに対応するため、売店と食堂をリニューアルしました。

今後も、ご利用いただくすべてのお客様にご満足頂けるよう、精一杯努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

営業時間
平　日：(売店)8時～20時
　　　　(食堂)8時30分～19時
土日祝：(売店)8時～19時
　　　　(食堂)8時30分～18時

休　日
年中無休
(12月31日～1月3日を除く)

(売 店)
コピー・FAXサービス／ゆうパック取扱／神戸市バスカード販売/松屋弁当販売

▲新売店の「グリーンリーブズ・スモールキッズ」
(新食堂は「レストラン・ビアンモール」)

Concept コンセプト

基本理念

周産期医療および小児医療専門施設として、母と子どもの総合的、高度専門的な医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

1.子どもの権利を重視した医療の実践

2.安心と信頼の医療の遂行

3.専門的な高度医療の推進

4.地域医療・保健・福祉機関との連携

5.親と子の健康啓発活動への貢献

6.子どもへの愛とまことに満ちた医療人育成

「げんきカエル」で取り上げてほしいテーマがありましたら、食堂前廊下の掲示板にあるテーマ応募箱へぜひおよせください。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

「げんきカエル」も平成15年4月に創刊され皆様の協力のもと第28号を迎えることができました。

「げんきカエル」ではこれからもこども病院のさまざまな情報を提供していきます。ぜひ皆様のご意見やご感想をお寄せください。

今号の担当は高橋でした。

編集委員長：池尻　操子
編集渉外担当：檜垣美香子
編 集 委 員：田中亮二郎　藤中　早代　長尾　洋
　　　　　　高橋　政靖　谷本江利子　藤田真理子
　　　　　　汐谷　恵　西島　明子

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで

兵庫県立こども病院
周産期医療センター　小児救急医療センター

〒654-0081　神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
TEL 078-732-6961
FAX 078-735-0910(総務課)
FAX 078-732-6980(地域医療連携室)
URL:http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/
E-MAIL:info_kch@hp.pref.hyogo.jp

21病ア2-020A4